歌枕名寄

第廿九

和書門
類
一八二七四
號
一七三
函
九
架
三
冊

内閣文庫
和書
類
一八二七四
號
三七
冊
二〇二
函
四
架

内閣文庫
番號 和 18274
冊數 39 (30)
函號 202 123

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

小陸部

若狭

越前　加賀　能登

越中　越後　寺泊　佐渡

若狭國

後瀬山　青葉山　三方海　雲濱

越前國

府乳山　矢田野　阿伎師里　海路山　五幡山

角鹿山　角原　濱水橋　黒戸橋　多結浦

武生國府　色濱　玉江

加賀國

白山　越白嶺　越大山　都乳山　蓮浦

内閣文庫

竹浦　小堀浦　篠原　羅渡

能登國

能登海　能登海山　香島　熊来村　机島

珠洲海　雲津　饒石海　岩瀬濱

越中國

射水河　二上山　須薩末山　渋谷　有磯

布勢海　平敷濤　妻姫濤　松田江　宇奈比河

日水江　多祜浦　菅山　三鴻野

新河　立山　竹見河　延槻河

礪波山　卯花山　雄神河　藪波里

婦屑野　鷹坂河

雜篇

弥彦神　伊都敝山　繁山　見奈疑之山

丹生山　大野道　楫野　石瀬野

伊久里杜　碎田河　叔羅河　奈呉

波久比海　銅鉢海　吹飯濱　英遠浦

信濃濱　雪島

越後國

佐渡國

越水海　雷高濱

奈古縄橋

越松原　越菅原

若狭國

坂瀬山　浦

やまとなる人いそのうきさ海苔
のちせのやまはなれはもあるむ君　坂上大嬢

坂瀬山のちもあんとせすとう
ちわへさ物成ふまてもあれ　家持

右二首贈答

たりひおよとけるあるあ接ちや
坂せのやまちちかしの物を　駿河

をちなる坂瀬の山乃さくらちか
りとよりも永せ物やいとか　光後

万四

月

千五百

桜

続拾十四

うれうちん拾ふ人の袖をぬ
ほせの山乃秋のゆふ霧　紀氏

新拾六　雪

とゝ物のまふ袖ふりそゝられ時雨つる
板敷の山乃こゝれにたゝ者　侍従

同十二

雪ふりまし板敷の山乃ゝの雪
ふる人ゝ知　侍人

同十四

あのかゝ板敷の山れ板ゝ雪
かよはぬ道乃ゝ雪ふる　右大将正良

拾六　雜

時しらぬあのさくらも見しこゝ
のゝせの山のよはりゝ雪　板敷女　大弐

同廿六

又もうん雪をうちまろわうさ海の
板敷乃山れ雪のゝ
袖ゝうめくさゝうゝ雪ふる接ちの
乃ゝせれ山のゝれ雪の葉　家隆

雜部

長十

浦

板敷乃浦よろゝき出るあまのあ
ゝうめよゝゝゝゝあまの苅ゝ　後鳥

青羽山

万八

秋霧者移爾有家里水鳥乃
青羽乃山ゝ紅付見者　三原王

堺

時雨

水ゝのあゝゝの山を神ゝ月
ゝゝれゝあゝゝゝゝゝ　仲実

千四
ら紀乃みたけ吉野の山も秋くれて
冬しらぬねさへしくれけり
前大僧正 慈円

堀百 紅葉
嶺さへ冬の吉野の山も秋くれて
露のうつまゝみちのしたはかり

新古七 松風
立かくれたすしかたりなかりれ
あさたちの山は松の夕風
宰相 光範

右一首元暦元年大嘗会悠紀方

続古三 遅桜
たつねきや吉野の山乃おそさくら
花のこころかまへのとまるか
太上天皇

千五百
ちりおる吉野の山乃さくら花
風よりものちをとはれさりせん
通具

なほさそふ花の木かけをたちやせて
あ紙をの山乃岩ねむすとし
定家

百廿
三方海 付濱 浦 原

若狭なる三方の海の浜きよみ
いゆきかへらひ見れとあかぬかも

をのつからゆふはのこる空乃雲
月にみえそのうらもさやかに
前内大臣

浦
夕月夜みこゝろの浦のはま松に
くもゐはとはむそてうつもとなね

原

こけのしたみちのあとをしるくらん
まさきかれにしをくゆと

雲濱

ちりぬるをなにかゆるされぬ海
あくのかのちりゆまあるとる

越前國

有乳山　峯　信義

万千　彩古六
黄葉　陸雲
淺茅
金丸

矢田の野はあるくあるち山
これの淵君さしくをあくらー　人丸
うらたの山人のこころはあるち山
ちり海をやーしきをはるとる　俊人家

月白

たりしやるかくくるるるけき
あるちの乃山はみのきさい　あや
右二首男ふつきて紀伊國へまりゆる
女井をこのんくるるれいおよ作る毎
のりくつるる紅葉也
雲かるあるちの山をりの町の
ふりの海をていくきつん　宿
独もなく風のきおもあるち山
ふれるけてはるる白雪　雪
夕され風の雪きさあるち山
雪よやとるるちのさい人　雪

雁　雪

千鳥

月

詠初六
時雨

弟長明きよれなりあれあるちゝ山
ゆふ神をいろくそくまく　前田人長

綾給六

矢田の野はあきちうかもうつゆれぬ
いくへあるちの三稼乃きゝ雨　乃風

詠恒古

あるゝ山きうの滝ちわれちゝ
これるこ雷はあるあ日を雨　中務卿親王

あるゝ山附為八田野ちゝ
ものえのゝ山を石筆ゝ山ゝ　実伊信臣

江ゝゆゝあ雨ちの山乃雷ゝ
ゝ日のはるそてのりをゝ
雷ゆくゝ市里つゝ逢いあるゝ山

月

庫

末ゝ雷ゝ庫うゝちなつゝ乃ゝ　後人ゝ為

手向ゝゝあるゝちの山はゆゝ
ひゝゝやゝみゝゝゝあるゝん　日

冬きていゝりのゝひもかゝゝあるゝ山

雲

雨

雷ゝ市ゝゝくゝちゝひゝり　後撰

あるゝ山市ゝのけゝ雨ゝて
ゝゝゝい谷めゝ市ゝゝゝ　日

あるゝ山乃ゝゝ雨ゝのゝ
ゝゝゝゝゝゝ秋風ゝゝ　中務卿親王

ゝゝゝ雷市ゝゝゝゝあるゝ山
ゝの猿人ゝゝゝのゝまて　源宣昌

こやに出て高てかれてあらし山
知家
あらしの山夕日くれのあらしつ
家隆
夕つきぬるやあけのたくらん
定家
色こそ秋のまれ風のあらし山
俊頼
いろふかの秋のあらしちるん
定家
あらし山このあらしに先そて
雲のゆくてはみるもさ雪
乃家
矢田の野のようちわくれい山風の
乃家
あらしのこれい雪山りはり

高嶺

建保名所百

出

月

金四

あらし山雪ふりつもれり
左京三位
朝忠
はしてもいつる東まの月の
嵐風のあらしの雪ふりて
中田乃雪野
天皇四人后
矢田野

公長百
九首

八田乃野之淺茅色付有乳山
峯之沫雪寒零良く
人丸

百十

紅葉五

あの〜ぬの矢田野紅葉さかりの
きりつまりよ秋はきりたり
寄題法師
矢田のの野や秋色の霧乃たちよ
法三位
為子

正首元年付

清ちりたつさりたくり

歌

わすれ草つく矢田の原野より出まして

井かくしてかくしてとく人

あつさ弓矢田のもり堂の苔とけて

をいる人やうちもきらん　仁徳

まくを原ひくく秋風あくるふ　敏貞

原さの大野の萩いちしろ

自余哥有乳山載之

六番　歌

阿伎師里　西字可作

あつち山雪をのうちにたりあれい　仲実

あさ雪のうちとうれしうて

海路山　建保名所百首帰字　哥心多酒也

京八　月

月十七　雪

廿九

十六

月七

世にふる山ありとはしらんとたのもうん　紀伊定

たちもとれあいうしうて

久方山たかみあてあるひ

きてもとまりあれるとうれ　能恒

さ雪のやへうちかさなる

ものうくもわたるよ山　左京　拾遺

我をのみ思ひつるかとは

そうるの山を伊とうれ　読人しらず

袖もうえちうちうも雪ふりかれて

ものう山路はまもひあるれ　三条入乃　右大臣家歌

こうれて今そちもとめるやま

宮ゐ河のみよしのゝ山ゝ　頼政

ふるゝよりたちそ紅をそめて

月ゆゑいかさまのゆふつゝ　後鳥羽

月

まそとひくたのゝ松をゆふ山

ゐる山路乃ゆふひもなき　西行法師

月九

ふれうん世ともちゝ乃かゝる山

いかゝさんあんとさん　伊勢

月十二

なのめてもちるけるさかりやま

らくへの雲とたにたるよやまり　源実朝

はまゝうゆゑてもゆきねゝ

ゝゝやいまもゝ人　信実

秋歌十二

ゝもとれて紅ゝあきかへるやま　法人宮

ちゝの色ハさうけゝ

ゝゝかゝみへゝてゝゝやま

月九

ゝゝゝゝゝ　仁和法親王

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ　法皇

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ　行意

ゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ　紀家

神をうみくまつるやま人　和泉

ちこ人ちるふ山ほあとをたにて　順徳院

さうひもしらぬ林のゆふぎり

うゑこ人ちられをやてかてるやま　寂蓮

ほうらいひとをもつとりつる我

ま玄ちるをしらぬ世をてるやま　藤原為家卿

ちゆをてりうちのこちまとをみつはし

いけのまゆゆりつりあつ雪をれん

かつら山ほうこちまをふらん　仲実

五幡坂　まの一

ちつ山ちちゆりうんはいちるさ乃

宝治百

八条左近衛家二十合

百十八

はなれん　君をのこいつちとはりひこうれん　家持

ゆりきのこちいはけをちうしを　後撰

ちれちる山世まこうちのかつるやま　伊勢

新古九

いけちる人はあんとはんん

かつら山いつちとはりひちて

遠信二

ゆき井のちも今やあひうん　家隆

角麻山　演浦

良忠

あけさちはる山をまちまて　有家

かつちちん今ちたくれろ

月まれちるをうれきあつさう

日

はる氏山のいそ乃うけ乃　家和

濱

万三

越海之角鹿乃濱従大舟爾真楫貫
下勇魚取海路尓出而阿倍寸管我
撈行者大夫乃手結我浦尓海未通
女塩焼炎草枕客之有者獨為而見
知師無美綿津海乃手二巻四而有
珠手次懸而之努櫃日本島根手
右角鹿津乗船時笠朝臣金村作哥

浦

後十九

我をのミかりひつるかた

かつらの山はもちくもり　清人家

右拾撰字鏡浦依有墨本兩様
載之如此〻可住〻在〻

開原　美乃國有同名世哥西方載〻　孰是哉

遠近抄

うらもなくのゝうらもなきなれて
ゆきもやられぬせきの原　浦仲心

泉水橋

あさひのうしはのひてまもれる
うらくとなりてひるかすも

黒戸橋

されうこの橋をめてそけのあさむつの

[illegible]

万三

手結浦

手結乃手結浦よあまをとめ　上下畧　金村

右全篇角鹿濱載

月及秋

[illegible]この海乃たゆひの浦を指して

[illegible]やまとの川

右本集云今案石上朝臣乙麻呂任越

前守蓋此大夫歟

月十四

浜

たゆひ[illegible]

[illegible]

道口氏生田神

作馬示

[illegible]

色濱

作者のいろせ乃[illegible]

[illegible]　中務卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉江

後拾三

摂津国有同名古人稱友芳平當国歌之郡有傳習

[illegible]　陽成

夏荷のあれよりあれとあいれるり　後撰

五月のあけるのうち

加賀國

望

ちるこひとそくていそく撰集れて　後拾

たまのをえうそうあさられれ

右左京大夫顕輔加賀國そそうり

白山

万十四　たくしらはたちうしの風の孫なんと

ちるりかりされあるこれ

ちるのをこのあやまるこんちるの山の　新拾

ゆさうくくもあるぬわるあい

月　君ゆくこのちるの山ちるねと　夫木

宮ぬまふくあるるむ

月九　きしまのりのはいうけまいうちなる　新後拾

ちるの山のあくの宮のうあるけるる

月十八　ちるの乃ちおるいうちれちるの山

いりの宮ぬちるるるるある　宗尭大夫

月　ぬるいやるちるの山ちるねる

一夜もゆるふるぬるれき　貫之

後八

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
いはねのまつのとしをへぬらん　後人云

月

月十八

あかつきのかみのたかねのやまの
はるかすみたちのぼるらん　月

月十四

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
ちとせをへぬるまつのしらなみ　源子の朝臣

月十九

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
ゆきはしまきのまつのしたかぜ　後人云

拾四

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
たちのぼるけぶりはゆきつのくに　忠見

拾百

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
ゆきはしまきのまつのしたかぜ

千五百

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
くもとのかぜにまつのしたかぜ　新古今

新古九

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
ゆきはしまきのまつのしたかぜ　二任

月十九

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
ちとせをへぬるまつのしたかぜ　藤浦

新勅十二

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
ゆきはしまきのまつのしたかぜ　後人云

月十九

ちはやぶるかみのいせのうちやまの
ゆきはしまきのまつのしたかぜ　信明

続後八
まねかぬ人はゆきゝえ雪けつもるらん
みちはかりにたえしのしら山　安嘉門院甲斐

六帖
しら山はゆきしら雪けふのまゝ
こしにもつもる雪もよかるらん
きみか雪はしらねのさはへのそこ
こしも見えすゆきのしら山　赤人

正治百
しら山乃松の木末はうつもれて
まとかにすめるらのさゝなみ　後鳥羽院

越白嶺

古八
さしかくゆりつむ雪をとふらはゝ
こしのしらねふましわかれ　読人不知

堀百
雪ふかくみれはさかぬ山のはし
いつまてとこしのしらねなるらん　仲実

十一 千載
みよしのゝ花乃さかりをけふみれは
こしのしらねに春風そふく　俊成

続古七
うつまぬひかりゆきはけてやとすらん
こしのしらねや雪のふるさと　後京極摂政

右日吉の宮人宮にまゐる時
桜さくらん山路ハゆきてえた
こしのしら〻乃山ちらぬかすれ
けふのはる〻ことしの〻のき月
雪はこしかりのふもかり　家隆

越大山

みなかみこしの越大山ゆきすぎて
とれのゆふ雲ものさびしん　通後

高願

うやうやしゆかしゆかしゆかしゆかしゆ
こしのたくねをみるやうやき　同

都氣山　雲雪

うさゝやまくおもふこゝろをはるのゆ
やまうたをこゝろたのしみてうれ

蓮浦

はすはうきすがたはうれしうゆかしきく

竹浦

若うらく竹のうら風ふきそ
海さうふ村のうらかゝ　光後

海

うみの海北竹のさまりをまてうれへ
一ふしこめて宮ありよりも　菊東　答歌

小濱浦

にしはやまやまの濱をまわて
ふきあるよ林の月をうんとん　菊東　後北

藻原　近江有同名

新古十
世の中はうきふししけし篠の原や
旅にしあれハ妹夢に見ゆ　俊成

続古一
ふるさとは夕風さむし篠原や
しくるゝ野へに宿をかりして　僧正行尊

篠波

現六
いつはりはやとくしすさしぬ山かつれ
とこのやとりもあられなる世に　衣笠内大臣

能登国

能登海

万十二
能登の海に釣するあまのいさり火の
ひかりにいませ月まちかてら

同十七

能登嶋山

とふさたて船木きるといふ能登の嶋山
けふみれは木たちしけしもいく代神そ　家持

右能登郡従香嶋津発船
射熊来村往時作歌

新六
流よりくるかもこほれるさなへて
一夜来さはるてふのとの嶋山　衣笠内大臣

万十七

香嶋

かしまよりくまきをさしてこく舟の

熊来村

猶楯熊来乃夜良爾新羅斧陸入
和之河毛侘河毛侘勿鳴為曽孫浮
出流夜登將見和く

右歌一首傳云或有愚人斧陸出海
底而不解鐵沈無理浮水郡作此

百十七

歌口吟為喩也

猶楯熊来酒屋爾真奴良留奴和
之伊須比立率而来奈麻之乎真奴
良留奴和之

机島

所聞多補乃机之島能小螺乎伊拾持
来而石以都追伎破之利早川乎一九潜
辛塩爾古胡登毛美高杯乎盛机爾立
而母乎奉都也目豆兒乃負父乎獻旅
也身女児乃負

右三首熊登國歌

百十七

珠洲海　付長濱浦　市牧

さくれ海はあさいなりてこさくれハ
も濱のうくふ月てりてもり　家持

右從珠洲郡發船還太沼郡之時

泊長濱灣見月光作歌

珠洲乃あまの　おきつみかみに　いわたりて
かつきとるといふ　あはひたま　いほちもかも
はしきよし　つまのみことの　ころもての
わかれしときよ　ぬはたまの　よとこかたさり
あさねかみ　かきもけつらす　いてゝきし
月日よみつゝ　なけくらん　こゝろなくさに
ほとゝきす　きなくさ月の　あやめくさ
花たちはなに　ぬきましへ　かつらにせよと
つゝみてやらん

右天平感寶元年五月十四日為贈宗家

願真珠哥大伴宿祢家持依興作

備中

歸牧

たらけらすのみまき北駒なれも
うひしみる野をわすれさらなん

勢

雲津

くもつ河よるまてめつり千とりなくの
なきさのかせをさむみなくらん　仲實

饒石河

いもにあはすひさしくなりぬにきし河
きよきせことにみなうらはへてな　家持

右鳳至郡渡饒石河之時作歌

かきちらす山したゝ水は川あめすせの
みつき河よりなみわたりけり　源仲正

右今案万葉爾藝之河波云々仲正哥

錦河云々　疑異點歟

岩瀬渡

あさ山のいはせのほり小夜ふけて
こゆるき川をいづる月かな　定家

越中國

射水河篇

万十七　いみつ河きよきのせとにあさりする
くたあさなし　あゆとそハなかれゆくらす
さかりまきみ　上下畧　望

同十八　みなと吹　風さむくしていみつ河
きよきこすのにょちへなる　上下畧　家持

同　射水河　風きよくこそ　ゆくれの
いやまきもとの河たく

同十九　朝床爾聞者遙之射水河朝已藝
思都追唱船人

同十七　いみつ河まよひのみちもそらごとく
わかちるれハあゆの風いたくしふけ

みちとうたをつまりをとこ　上器

二上山　此山者在射水郡也

万十七

いみつかいゆきうるむろをみるとみの
ちりぬれのさけるまりに枝のまつの白つゆ
そなたをかりけれ　むろや　竹原石麻呂

月

反歌

むろをゆきうるはなくちれ　家持

しろのうひきはたらす

月

むろをさうとみるのわかれを

ありたい　作者

月

つきに二上山をうるとうの

月

三沢野をうるとうの　下器

山ちかくて　雲ゐくる

一上のとともこれをあきらて　上器

ありたいたかいめをたも

右一首射水郡古江村取獲養鷹

作者

月

ゆきまれ春をうるむろを　帝道良

月

ちりぬ山ちりぬ月をみぬ

月大

ちりみの山をちりぬ

いまもちりぬ

百十九

まそてみ嶺上山りこのれ乃
ちけさ会へをめもりる　上下畏　大伴池主

尾上

同

二上の峯於乃紫ふもりい
行くさきすまそいまされる　家持

巻三

須蘇末山

同十七

須賣加来佐乃須蘇末乃夜麻佐之夫
多尓佐依去乃里薩尓河佐奈義尓
爾餘須流流之良奈義由敷余義尓美
知久流之保佐乃伊夜麻之尓　上下畏　家持
谷の戸ハちよりさいてあまこりも

巻三

渋谷峠

同

そ地もまの山よ松風うて　大伴
そめ神乃そそもの山ハ　たの
さ江のありそよあさりよりは波　左か

反歌

同

ちはふの山乃ありそよりは波　家お
いやちくしよりおりの　家お

同

ちりうりれありそよりちりの
うるい河　上畏

濱

同

万十九　ちの谷をさしてつりこの流れ
月秋あきてんるちうちゆ　家持

磯

月十七　るたんていさうちゆふかちまるまの
並四　きよしいつるまふよちの波うま　月
月　海浦濱渡

有磯

波谷のありそれされて　ばりかうこ
月　よせうるまを　かさりまつうり
月　いもうめ
月　つりうんちうれてちりせいこの海れ
月　ありそのの波ちこせまり　家持

石一首　任国に同遍国并衰感傷
月十四　作る也
月十五　ちのうたのうれのありそまちの波
月十六　いやちくくこいめ　作りの　家持
月十七　波れうれありそれのりふ芦ちの
月十八　ちみをくあうん波ちをうん　遊人宗

海

月十五　ひうちまちまちまつうまりそ海の
月十六　ち海のちの波いうちつうちち
月十七　ありう海乃濱のちうこと教りい
月十八　ひすちくうとの教ちちあり乃　遊人宗

拾十八

我もまた人のもやもやもしわりて海の
浦ふく風のやむときもなく　均のみち

拾十

ありそ海のうらとなのりそのりそのこ
うちよせてたちもとれりいかに　法人家

拾拾十四

ありそ海乃浜のまさごとられもする
いそうわるあのあるとうへく　右拾

増

みるめかりあれ海のうつを見
あまとやこあるらをやはまん　仰哉

新九十一

我こひいありその海ふれとてこ
ちをりまよ沢のもとる　仲哉

続九十三

ひとりはかりあるこころいわりて海の

濱乃まさこ　同院　左衛

浦

拾十一

かくてのこあるのそのの浦ふれ海ちう
ちにあきつこのやまこん　後人家

金八

人をれあ世りのあるれうる風
なるこのうるこういまりれ　後恵

濱

後十

いそてやふうあるれ濱風う
ふれ波のちうわりき　後人家

新後十三

かりいうあのをる波乃濱ふる
あるもたもとうめぬ　門行家　頂千朝臣

百十二

渡

大濤之有磯の渡延久受の（オオサキノアリソノワタリハラクスノ）

往方無憑渡南（ユクヘモナクヤタノミワタリナン）

右今案ずるに史略紀有磯に詞載く

大濤のありそのわたり事こめて

をちかたもなしとぞ思ふなり

百十七

巻五

布勢海（水海 浦）

布勢の海を詠うけるうた

はるばるとなみたちかへるこゑきけば

ちかのうらにぞあさりするなる

反哥　こめき　上下畧

百十八

湖

いもとのめ　上下畧

ちかのうらにあまもこのうん　田邊史福麻呂

百十七

ちかの海のたちまちにあらしかぜ

いたくふきたちて　家持

ちかのうらのうん

百十八

浦

いなかせの海の浦そもてたるよ

きみりの見せをそ　大伴池主

田邊史福麻呂

百十八

月

月

月

右四首天平廿年春三月廿二日左大臣
橘家之使者造酒司令史田邊福麻呂
郷食于守大伴宿禰家持館宴
新歌并使誦古詠各述心緒于
時期之明月將遊覽布勢水海

田辺史福麻呂

家持

仍述懷各作哥

百十七

辛敷崎 浦

月十八

月十九

月十八

浦

上下畧

上下畧

おりそのめをうしなひてあるとうの祈

百十八 垂姫濤 浦

袖さつるあまのいとのたえこさめとう

されとあるをいとふ物をん 同

百十九 浦

ふるいめをうしなひてうくるの日へ

たのしくあらへいひつきよをん 遊女師

同

春ひいめ浦をとくみ物ありまし

なしのわさんをまれてこそや 家持

百十八 右四首至水海遊覽時各述懷

作歌

松田江濱 長濱

写奈比河

百十七

武士乃やうなものをれ世ちらかんと

るなそうちうちの志乃あり

ひとまちまつのさきまちまち

たえのあるを海ちてうひ河きを

ちちううちうち 下畧 家

石越覽布勝水海賦

日水江 付古江

松田江の濱ゆきてはなる蓼の江

るくあこの海をとりとりのもの

同

[illegible]

[illegible]　上下里　家好

右射水郡古江村取獲鷹鷂時号

多祐浦　崎

百十九　多祐乃浦は[illegible]

拾三　人丸[illegible]　かすみ立てゆたたゆ[illegible]

同　いさりふみ[illegible]

[illegible]　さけの花乃[illegible]

同　花浪の[illegible]海のうた[illegible]

同　[illegible]

同　[illegible]

久米朝臣廣縄

次官内蔵忌寸縄麿

家持

[illegible]

右回首遊覧布勢水海船泊於

多祐灣　望見藤花各述懷吾

千五百　たこのうら波[illegible]に

同　ゆ[illegible]

同　波よりくる[illegible]

同　[illegible]

久米朝臣継麿

仲麻呂

大伴宿禰坂上郎女

[illegible]

[illegible]

千巻

新古十六

あしたさ有浦うちさうの
うらをよすたこ乃うら風　奥親
をのり浦よ漕すー舟ぞうちられぬ
有さくあこのうらぞ乃ぞや　壱法
ぬきつもちあくやゆんたこの浦の
うこさうちみ乃有浦　頌法法
ぬぬたこの有みー波うけ舟　吉乃信
ゆてよかさそ神やわ重ちん
をちれよこのたゝ山かゝた
たこ乃うら有今ーうちり　家持
れりえよ波のけうう久乃て

建保五年
古江村

新撰万

万十八

崎

多胡乃浦このれをけさかゝた
をれ家ちあいちうひやを　家持

定四

みさをもちうさあこ乃浦有　乃家
ちれへうあこのうう人ぞけて
うちうれ水入江せかり　家信
文月あの山ろ石のゆれとまわる
れりまてかうたこのうう波

万十七

菅山

副木葉里

こうまゆうまふとうをそれやま
をうれくのうあうひまうん　月

寛治百

去ハたゝ秋日ひとすきそうの山
みしらぬあらぬ色の色かな　　永望四位

仏長久百

色もなつかしまの色共里のかりそめ
あらくれしらぬそをれ山風　　信定卿

現六

ちりまさしまの色乃里をたとれ
さそすとらしと枯もりん

三島野

万十七

やはらぎ風をたとへみしま野
かりねりまゝ行くに月うへにもる　　家持

月

三島野をうつのよりてみさうの
山ちかくて雲ちかし　　上畏　月

月十八

雲

狭拾五

沙弟　新

六百歌

みしま野は霜のきさらぎ
きのふもきゝ雲ふりて
三島野はあらしの風
多つきぬやうなくらん　　前大僧正
面けをはの月ゝ雲に見えて　　隆信
月ゝ雲しらぬもの色
三島のやくれ行やる風の
たうもまろよ雲ふりて　　為家

原

夏ゝれをこまうの色ゝ
ゆくもゆくけぬ見える　　家持

新河篇

万十七

須賀加末祢宇之波伎伊麻須
爾比可波祢曽ゆ多知夜麻爾　上下畧

立山　副気比古宮

月及平

あら山よりあらけき宮をとこかは
ふれもあるかな山ぶきの
あさひさしそひたる山のうら
うらよりおろす雲ゆたなびき
あまくもと立山ゆきなと
ふくかぜに雪ゆふりをさて
いかにへにあらむこしの　下畧

月

月及平

あら山よりあらけき宮をとこかは
まさてはまろいうあをきうらとて
山とまろ法のうらのうらのよりて
神さびはまろ宮ひのうら交　行意

大伴池主

万十七

片貝河

月

さかのれ河乃せさくゆくみの
たゆることなくありかよはん　家持

延槻河

月

おち激流かるひ河乃きよきを
いまさら人とやまかよはん　池主

あら山乃言ちくさもものつきれ
河乃わたりせあをはるもを

右新河那渡延槻河時作歌

礦波篇

山

百十七　たなみ山とこの沖とめさまつり
あらこひまくれくもを　上下累　池主

月十九　利波山えいちしるしてあをきてい松のさ枝に
夕されい月とひらをあやめ多　上下累　同

月十八　同

やさあらをとをうみれ世きとめらしん

右天平感寶元年五月五日饗東大寺
之古墾地使僧平栄等于時送酒僧（ソホウ三）

歌　家持

いりう家よくもものつまひちらん
となみの同をもふこちなく　顕宗

月六

いつまう我やとりをんやきちれ
とをみのせきふうをれれる　豊四倉

こちをいく物よなりもり
とをを乃同れ宮のあけなの

卯花山

月かせいうれ花山のかくさす
秋のうちあるあきはきりぬ心
ゝよ出く いくゝゆゝとゝみ山　上下畏　家持
ゆくゝりあのかくるほくゝきゝ
和の花山ゝかくらん　人丸
夏の秋いかくも月いのゝ山ゝ　陸信
和花やまとあるなりめん
朝ゝさ花和のの花山をゝわけせは
ゝいくゝりて はゝりゝ宮　紀房
はゝゝさ花和花山やゝゝひて
ゝたゝれわ月なくあり　守覺法親王

あけわゝゝ花の花のゝ世ゝ人の
うれ花山乃みゝ花月　中務卿親王
日新ゝ和のの花山はゝゝ
ゝれわゝけて秋ゝ　小行任

雄神河

手かゝ河ゝれなあゝゝ
おつゝゝとせよあゝ　家持

右礪波郡雄神河邊作歌

おゝゝ河ゝゝたゝゝ
ゝゝ芦つゝもせゝゝめゝて

右睦月の七日中宮仲宴ゝ行ゝ七首

茱萸つくすとてよめるうた

三月節

たかとの河のうさはひえをあゆりて

あをみともさめぬうの花ちりぬ　後拾

みちみの河のうさつのようつくしいのうあぶな

つとさをとてもうこのうさめう　月

藪波里

百十八

やとれみのきにやとりの去あり

こゆりつむとよつまりや　家持

右宿藤波郎時忽起風雨不拘

去作平

婦屑篇　野河

百十七

賣はれ野のすくさをうとうる君よ

やとりもをつくはりかね　高市連黒人

月

めひ河はもやさ波とよりかさ

やうこものをいうこもちり　家持

鸕坂河

月

うはう河のうつ波はをこのあるは

あをさのゆきぬまとり　月

うくひす人のうつのいうさう門

まうせはりうたのもん

雜篇

除疫神

百十八

いや丸こ乃井の神さひあを雲の
うれひく日ちこさめ
いわまの神乃みすまらもゝ
麻の山ちん皮のきぬきて角つき
右二首城中國寺四て門

同

伊都敵山

百十九

吾妻許斬奴波久不紅爾霍公
伊頭敵能山乎鳴可將越

繁山

一本茂山

同

うけせこは 吾をうけこてうけて
ちひちをれ ひきちて物も物も

うちこしに うちあさ山を 繁山乃
谷へよ地ゆ やまつき鳥 常月人て
あきつ鳥 ちはいやまて こゆ山もも
ちけ山のうちひ乃乃谷あひを
家物
百十
見奈疑之山

百十九

ひきせこと ちふきうてあけれも
おとしもひ ゆゆしもいりけこて
山もみうも こちさ山 八峯うち
霞うちなき 谷へ小代 つちさ花さき

ぎりうの　まれにまれい　なりこそ
いやとさいわ　ひとりの乃と　きけいさしも
君とまれ　いとそこうろ　とうみ山　六下碼波山

丹生山

万十九　ひとりのこきけいさしも　なりこそ
まつの山をよいゆさなくる
石見奈新く山平反新也

大野道

万十六　大野ちいちけらいたをれたもくよ
きこうかくこうらいひろもん
石瀬平岡ヲ内

楫野

万十九　ちきはちよさとちきはいちちく
孫うもちみんこうりつまうも　家持

石瀬野

門　秋附潟（アキツカ）茅子（ハキ）開（サキ）ちみ石瀬野ま
るたさゆさてをちこひよちみこて
ちこわりの小玲もゆまあせやり　上界門
いませ野ま牡ちきれきちなて
ちりとうちにせてやるちん　門
ちこありのちこもゆらこいせ野ま
あちせてうこうるゆらみのちう　野ま

日

日

坂百

伊久里社

百十七

いもうの御よいくりのかりに成乃花

今うん去もつねはくしうん

右一首傳誦僧玄勝是也

いつくよりいくりの去なうん

あれぬ花の花を見せて　家

碎田河

百十八

あくむのうかうまきれの花のこうも

あれの山ふくさ初ちなる　碎田乃

河の瀬あゆさりを去ましうひうへ

かくりさなつひり　わさもこゝ　かくそと

これうれのやしをせて　衣のをそ

さりてわれぬ　家持

反歌

これなぬはうもの自ふさ川

しゆうとなくわまうりうん　同

うのうにあゆしたれいさ紀田の

うやけうさて　同

さりさ河うさをうあはさはの

をしゆうまて　二条院讃岐

叔羅河

百十九

はくら河なつさひのかりひ流

月五秋

千五百

百十七

月

奈呉

海江浦 渡陵

なごれあまの釣舟の永いとこころい

ふるされうらてあへてこさくめ 八千鳥

アユノカセ

東風いくこうら なこれあまの

海まうをこれこうつる夕西 家持

百十七

月十八

月

秋

海

拓津国有同名子細サ〻註伝知平

なこの海れおちつまつ波たちくる

はりかつんうもたちもとれなく 家持

奈呉の海まれ風ふせおそ

波ちくやとてうらん

なこの海まかれひあきしを

いてんこりい今をたくたの

右数首奇大伴宿禰家持作歌中也

時度〻宴奇也

なこの海やとわるあのゆさすり

なのこ一人のまれねる 作者

秋五十一

百十七　月　家持

江

こなたかなたのえは
はまをひろみかきつばた
あやめをかくなこえのまもれ
なかれもれたるけきつて　卜部　月

同　霞

全八　時

あつまはなこえはあらあれ
うぐひすをなくこえもあや　はるの入り

弥生八

みちのくにのあやめ
なこのえはあらはまり　桜井納言　長二方

弥生九　月

月はくいまうこれるこのえは
ゆふへはけうあまのつりふね　光俊

新拾五

こしなしふなこのえはあらはり　実納言　具房

みちのくをみてをめる月をを
なこのえは雪あらひうつるかの
ふるうるうるはやけめる　中務卿　敦仁

百十八　月

浦

波はていはなこのうらまふるひの
はれきをうるうつへはまる

同十九

あゆをいるこなこれ浦なるる波
いやちこしにこひまるる

堺

このの海あのの風ふるこの海に
あいそめよ波まるせん　仲実

夕されば つまよびわたる なくなくの
みるめつきとる なごの浦風　月

百代

渡

吹くるよ あすの風ふきそわく
なごのとわたる あり明の月　経盛

湊

浪さけく なごのみなとの風
入江のちどり 鳴てもの也　貴院

百十七

波久比海
之手海

あされもつ うらもなかれの海
家持

百三

飼飯海　浦　濱

右赴奏氣比大神宮行海邊之時作歌

もしの海乃 よりくる波の かけもなく
うらもなくこそ あまれつるかな　人丸

百十二

浦

もひの浦よ しる波たつ
いもりをさ ひかゆらもも

吹飯濱

時風　吹飯乃濱ふそわけ
月

あよ命ハ ちもとめこそ

英遠浦

百十八

あとはうつゝ波いるまよ

たちきよせてあるとこゝろ　家持

信濃濱　いてゝよりまよ　ゆうそこの海はちかの濱の　花の初風

月十七

越の海はちかの濱をはりて　月

なりさきにはもとをれてゆくや

雪島　世島為名所歌　在所不詳

月十九

雪消のいそ風ようなりてこも

子世まさはわうかさよ

右大伴宿祢家持越中任国之時節

宴遊行女婦蒲生娘子作歌也　真詞

云天平勝寶三年正月三日于時積

雪彫成重巖之起奇巧　緑貧苣

樹之花　云云

雪消のいそわはたちうれき

まはとなりさせにちられてうゝ

ちくはなりくたりはとゝは雪しの海の

いつ風よさはけりてこの花　家持

越後国　頼未勅

佐渡国

越小海

うゝ見てもすゝかせんあるそのを

うゝのゆ海うゝめをけ直も　佐成

宮高濱　越浦

みりつく宮のたなそこをはらくと
おりけもなしぬるの浦風　為家

越松原

ちかはよりあはむとかはなまもも
うもはたしてそうきはれ松原　信実

越菅原

まむつくちしのをうわまうて
人のかりまくみさをうつ
ちまちさちしのをうつ拾てく
しりもあきなかはん　家隆

万七

万七

ゑまひぬありしはひまるる
ちしのをくつ人めもりて　右兵内大臣

奈古縑指

東河のなこ此つきつやてねと
世三ゑ　あるらもあやうりかり　式乾門院

国立公文書館
National Archives of Japan